

## 渇水に対応した水田の管理対策

- 昨年の干ばつや、本年の少雪、早い雪解けなどの影響で、ため池や沢水利用等の一部水田で水不足が生じています。
- 当面の対応は、降雨や排水を利用して丁寧な畔塗・代かきなどを基本に、できる限り早めに田植えを行うことです。
- 田植え後は止水に努め、雑草防除を徹底しましょう。

### 1 田植え前の対応

#### (1) 水の有効利用

ていねいに畦塗り、代かきを行い、漏水を極力防止する。また、代かき、田植え作業では用水確保状況に合わせて、できる限り無駄のない水利用をする。

#### (2) 田植え

##### ア 用水が確保できず田植えが遅れる場合

- 気象情報に注意し、降雨による作業機会を逃さず、代かきを行う。
- 苗の老化を防ぐため、寒冷紗等での遮光や、通気を良くし、過剰なかん水は避ける。また、肥料切れが見られたら1箱当たり窒素成分で0.5g～1gを追肥する。なお、育苗期間が長くなるといもち病等が発生しやすくなるので、発生状況により防除する。
- コシヒカリで移植時期が遅くなる場合は、茎数を抑えて収量レベルを下げ、品質確保に努める。

##### イ 移植晩限を超える場合（表 参照）

地域の移植晩限を確認し、移植晩限を超える場合は水稻から他作物への転換を検討する。

### 2 田植え後の対応

#### (1) 漏水防止

小まめな水回りで水路・畦畔からの漏水や排水口が閉まっているか点検し、漏水防止に努める。

#### (2) 雑草防除

- フロアブル剤やジャンボ剤など水量を多く必要とする剤型は避け、水稻生育期間中に使用可能な粒剤や落水状態でも散布可能な選択性の茎葉処理剤を利用する。また、除草剤を散布していない場合や、散布した除草剤の抑草効果が不十分な場合は、ヒエ等の葉齢を確認し、適切な除草剤を選択し、適期を逃さずに散布する。
- 除草剤の使用に当たっては、成分の使用回数に注意するとともに、特別栽培米等の取り組みに支障がないかを十分確認する。

表 アメダス観測地点のコシヒカリ稚苗移植晩限及び安全出穂期晩限の推定値、  
成熟期晩限（H26年、農総研基盤）

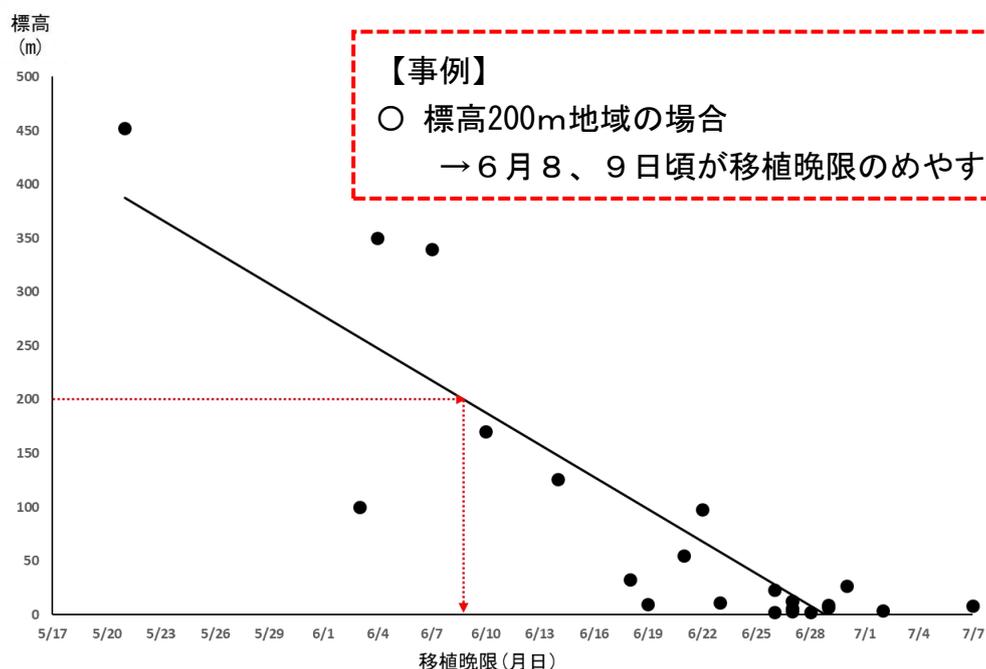
地点	標高(m)	移植晩限	安全出穂期晩限	成熟期晩限 最低気温 10℃以上
大潟	13	6月27日	9月4日	10月22日
高田	13	6月27日	9月3日	10月22日
安塚	126	6月14日	8月29日	10月16日
関山	350	6月4日	8月26日	10月17日

注1) コシヒカリ稚苗移植晩限、安全出穂期晩限はメッシュ気象推定値(農研機構 農業環境変動研究センター)の平均気温の平年値（S56～H22）をもとに推定した。移植晩限日は葉齢2.5葉の稚苗を用いた結果であり、葉令や苗質等により変動する。

安全出穂期晩限は出穂後40日間の平均気温が20℃以上を確保できる晩限である。20～22℃で平年作、18～20℃で不作になると考えられる（田中、S37年）。

注2) 成熟期晩限は各地のアメダス平年値を用いた。

<参考> データから予測するコシヒカリ移植晩限のめやす



※ あくまでデータ近似値からの予測ですので、標高に加え、地域毎の気象状況等を加味して検討してください。不明な点等あれば、下記お問合せ願います。

お問い合わせ先 (TEL)

上越農業普及指導センター : 025-526-9406

JAえちご上越農業対策課 : 025-527-2050